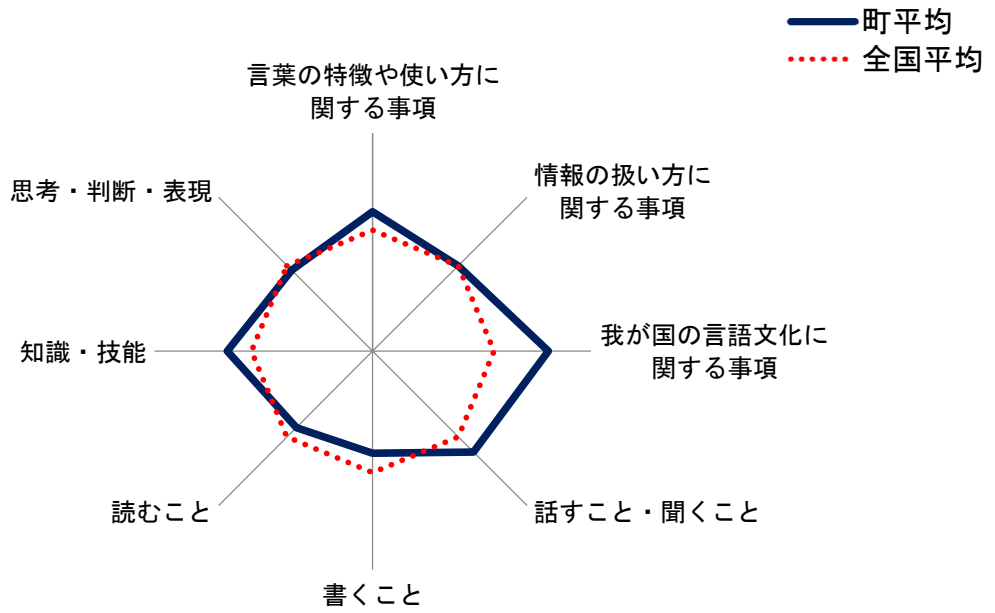
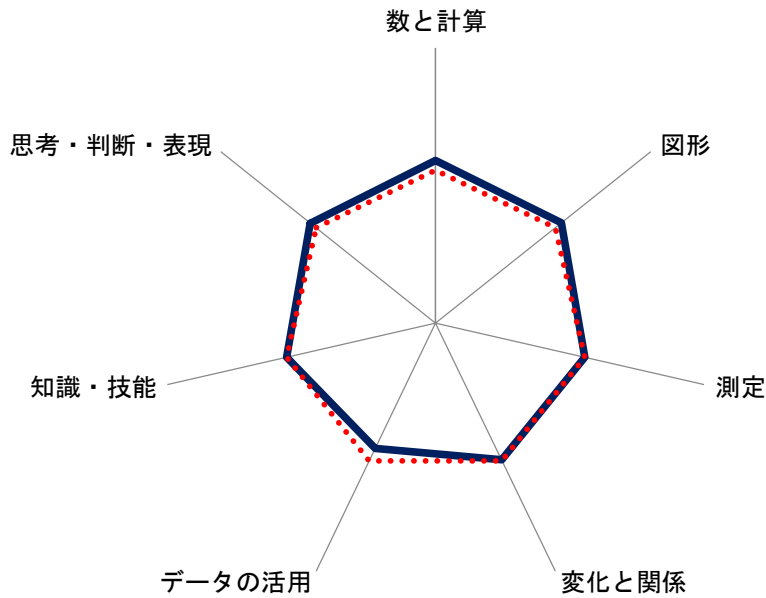


○ 教科に関する調査 (全国の平均正答率との差)

【国語】

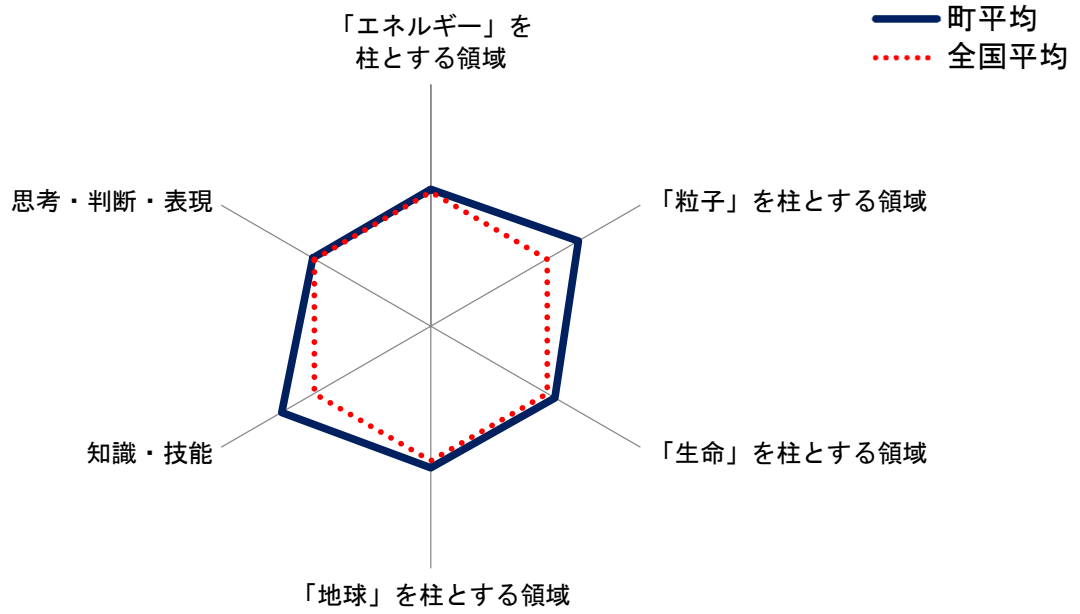


【算数】

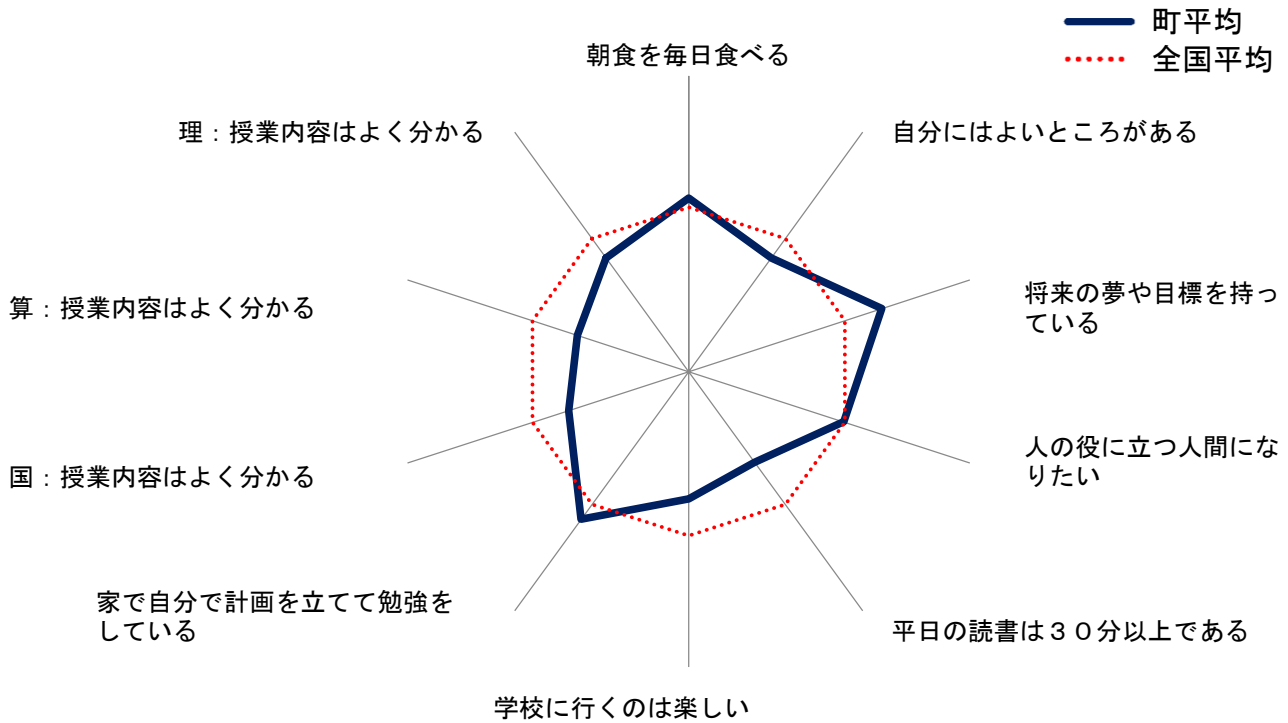


○ 教科に関する調査 (全国の平均正答率との差)

【理科】



○ 児童質問紙調査 (全国の平均回答率との差: 肯定的な回答)



○ 結果の分析と改善策

教科に関する調査では、特に、国語の「我が国の言語文化に関する事項」、理科の「『粒子』を柱とする領域」などの項目が大きく全国平均を上回っており、良好な結果である。一方、国語の「書くこと」「読むこと」、算数の「データの活用」などが全国平均を下回っており、これらの学習内容の定着に課題が見られる。今後も、更なる学力の定着と向上に向けて、児童一人一人の課題をしっかりと分析することにより、知識及び技能の定着とその活用を一体的に捉えた学力の育成を図る取組の推進が望まれる。

児童質問紙調査では、「朝食を毎日食べる」「将来の夢や目標を持っている」「家で自分で計画を立てて勉強をしている」の項目は全国平均を上回っているものの、それ以外の項目は下回っている。今後、自己肯定感や自己有用感を高める教育活動に、学校、家庭、地域が連携して取り組むとともに、各学校の実態に即した、魅力ある学校づくりをより一層推進することが望まれる。